

# 被覆電線のリサイクルの現状について

## 1. 電線の種類、用途等

- ・ 導体の材料（銅、アルミ）被覆の有無及びその材料等により様々な種類あり。
- ・ 電力用、通信用、建設電販（ビル用配電線）用、電気機器用、自動車用等が主な用途であり、H13年度の用途別の国内出荷量（導体重量）は以下のとおり。

（単位：導体 千トン）

建設電販	電力	通信	自動車	電気機器	その他	内需計
356	115	20	68	199	64	823

- ・ 多くは絶縁等のため被覆材により覆われ、また場合により強度を持たせるための外装を持つものがあり、その材料は、塩ビ、ポリエチレン、ゴム等様々。
- ・ 被覆電線とは、一般的には建設電販用（ビル用配電線）を指すことが多い。

## 2. 廃電線のリサイクルの現状

- (1) 電力用及び通信用電線については、電線メーカー系の回収ルートが確立しており、ほぼ 100%が回収。被覆材と導体とに分離されたうえ、導体はほぼ 100%がリサイクルされ、被覆材も多くはリサイクルされている。

- (2) 建設電販用（ビル用配線等）電線は、ビル等の解体に伴い発生するが、建設現場で分離回収されることなく、建設廃棄物として一体的に処分されている場合も多いものと推測される。廃電線として分離回収されたものは、電力用及び通信用電線と同様に処理・リサイクルされている。

- (3) 廃電線の処理・リサイクルに関する実態は以下のとおり。

回収された廃電線は、処理を専門に行う業者（ナゲット加工業者）において処理。廃電線を導体・被覆材とともに粉碎機に投入し、細かく粉碎切断し、粉砕片は比重選別等により導体（銅、アルミ）と被覆材に分離回収される。

分離回収された導体は、ほぼ全量が電線導体又は伸銅製品等にリサイクルされている。

分離回収された被覆材は、一部がリサイクルされるほか、産業廃棄物処理業者に委託し焼却又は埋立処分されている。

平成 14 年度に実施したアンケート調査によれば、詳細は別紙のとおり。

## 【別紙】

### 廃電線リサイクル処理事業者の実態調査結果

全国の廃電線処理業者 96 社（現時点においてカバー率ほぼ 100%）を対象に、経済産業省委託事業の一環としてアンケート調査を実施し、45 社から回答を得た。結果概要は次のとおり。

回収量：20.1 万トン

処理量：17.6 万トン（処理後の内訳：導体 7 割、被覆材 3 割）

リサイクル量

a)導体：12.4 万トン（再資源化率：99.8%）

スクラップ問屋、再生地金メーカー、電線メーカー、伸銅品メーカー等に出荷され、銅製品等にリサイクルされている。

b)被覆材：2.2 万トン（再資源化率：43.1%）

プラスチック再生メーカー等によりリサイクルされる他、燃料として再利用されたり、プラスチック原料として輸出されている。

廃棄処分量

a)導体：306 トン（回収量の 0.2%）

b)被覆材：2.9 万トン（回収量の 56.9%）

産業廃棄物処理業者へ引き渡され委託処理等を行っている。